

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870102153		
法人名	有限会社イヨメディカル		
事業所名	グループホームみゆき		
所在地	松山市御幸2丁目8番16号	(電話)	(089) 922-6011
管理者	篠崎道子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 24 日	評価確定日	平成 19 年 11 月 29 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 28 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	21 人, 非常勤 人, 常勤換算 21 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,666 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 31 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性	0 名	女性	27 名
要介護 1	5 名	要介護 2	6 名		
要介護 3	12 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	50 歳	最高	95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは開設6年を経過し、利用者とは職員は生活者として地域の中で住民とふれあいのある安心した暮らしができています。利用者の表情は穏やかで笑顔が素敵で明るい。職員は利用者の答えを待つことで、利用者が思いや希望を表し、また自己決定する暮らし方を支援している。日課として全員で出かける散歩など日々の生活に潤いを増すために戸外に出かける機会を多くつくっている。運営者は職員が資格を取得することによる待遇改善を図っており、職員の専門性を高めるための意識向上と利用者のケアサービスの質の向上につながっている。医療機関と24時間対応の連携体制ができていたり常勤の看護師がいることは利用者、家族や職員の医療面の安心につながっている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて話し合い、実践につなげる取り組みを行なっている。感染症マニュアルの見直し、理念の見やすい場所への掲示や啓発の取り組みを実践している。栄養バランスの把握については引き続き取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
今回の自己評価は各ユニットリーダーの気づきをベースに職員の気づきを補足し、ケアマネジャーが一つにまとめ、意識合わせを行なった。職員は自己評価の項目一つひとつを各人が評価することから、日々の自分を振り返ることができると認識し、自己評価に前向きに取り組んでいる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議は定期的開催され、事業所の現状、外部評価結果や取り組み内容など報告している。またメンバーからも意見や要望があり、双方向的な話し合いが行なわれている。メンバーから入居希望者の紹介をいただくことがある。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
面会時には職員から声をかけ、要望など積極的に聞くように努めている。意見や要望を受けた時は記録に残し、話し合いながら運営に反映させている。速やかに対応する職員の姿勢に、家族は意見を言いやすく相談しやすさを感じている。苦情相談については契約書に明示し、重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口と公的窓口の連絡先を電話番号を入れ、相談しやすくしている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
開設当初から自治会に加入し、町内の祭りごとへの協力、日課の散歩の際の積極的な挨拶、中学生ボランティア体験学習受け入れや地域の幼稚園との交流など、地域との関わりを積極的に持つことに努めている。地域の一員としての基盤作りはできている。次なる段階として、利用者が主人公になり地域の一員としてご近所づきあいができる取り組みを期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホームみゆき

記入者(管理者)

氏名 篠崎 道子

評価完了日

19年 7月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念を“家訓”としてサービスの核(方針)としている。 (外部評価) 「家訓」というかたちで示した理念は、家庭的な環境のもとで利用者の暮らしを支援することを主に目指したものである。開設6年を経過し、地域の中で、生活者として利用者と職員の暮らしが実践されている。さらに運営者は理念を具体化させ一年の計として「今年の具体的方針」を毎年示している。	※	地域の中での日々のケアサービスのあり方の共有を図るための意識づけとして、今ある理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフルームなど要所に掲示し、ミーティング時には必ず音読し、徹底に努めている。 (外部評価) スタッフルームなどに掲示し、ミーティング時に必ずふれ、確認しあっている。管理者は、具体的に理念を伝える手段として、言葉での説明よりも実際の現場で自らが実践する(してみせる)ことをモットーにしている。また職員は管理者の一貫した利用者本位のケアサービスの姿勢を手本にしている。		職員への意識向けには成果がみられるものの、毎日の中で理念に根ざしたケアが実践できるように努めたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 散歩・買物等日常生活時に「迷惑」を掛けないようにしており、近所の方からは褒められます。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 外出時などお会いした際には、挨拶を交し合うことはあるが、個人レベルでの付き合いはできていない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ほとんど毎日の散歩で近所の人と顔見知りになり、可愛がられます。 (外部評価) 開設当初より自治会に加入し、町内の祭りごとに協力する、日課の散歩の際には積極的に挨拶する、中学生ボランティア体験学習受け入れや地域の幼稚園との交流など地域との関わりを積極的に持つことに努めており、地域の一員としての基盤作りはできている。	※	さらなる段階として、利用者一人ひとりが主人公となり、地域の一員として普段のご近所づきあいなどあたりまえの暮らしが継続できる取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 微力ですが、社員一同で取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 各人は評価の意義を理解し、評価項目を通して振り返り、よい機会となっている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義や活かし方を理解している。今回の自己評価は、各ユニットリーダーの気づきをベースに職員の気づきを補足し、ケアマネジャーが一つにまとめ、意識合わせを行なった。前回の外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて話し合い実践につなげる取り組みを行なっている。	※	今後、評価を通じて明らかとなった改善点については、施設を挙げて、計画的かつ積極的に取り組んでいきたい。 職員は自己評価の項目一つひとつを各人が評価していくことから、日々の自分を振り返ることができることと認識し、自己評価に前向きに取り組む姿勢がある。次回自己評価の仕方については、職員の意向に沿った取り組みを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 議題のメインになって、サービスの向上が図れます。 (外部評価) 会議は定期的で開催され、事業所の現状、外部評価結果や取り組み内容など報告している。また、メンバーからも意見や要望があり、双方向的な話し合いが行なわれている。メンバーから入居希望者の紹介をいただくこともある。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 研修会に於いて同席し、共に取り組んでいます。 (外部評価) 運営者が福祉用具貸与・販売会社で、従来より市に出向いており、その関係から、折に触れ事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、サービスの質の向上に向けた協働関係がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、制度の活用を必要としている利用者はいないが、ミーティングで勉強をしています。		今後、研修会などに参加し、勉強したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 人としていかなる意味においても、虐待は行われるべきではないと理解できている。しかし、法についてはこれから学んでいきたい。		高齢者虐待防止関係法について、学ぶ機会を設け周知徹底に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には、利用者やその家族等には必ず十分な説明を行い、理解を得た上で行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 特に施設長が気を使い、努力されている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 各々家族来所時には、利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理等の報告を行っている。又異変時には早急に報告を行っている。 (外部評価) 面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。日々の暮らしぶりが垣間見れる写真入りの便りを随時送付している。変化や課題があるときはその都度電話で報告・相談している。金銭については、日常生活に必要な額を預り、金銭出納帳で管理し、詳細を報告し、確認のサインをもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 問題が発生しないよう、それとなく対処できている。 (外部評価) 面会時に職員から声かけし、要望などを積極的に聞くように努めている。意見や要望を受けた時は記録に残し、話し合いながら運営に反映させている。速やかに対応する職員の姿勢に、家族は意見を言いやすく相談しやすさを感じている。苦情相談については契約書に明示し、重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口と公的窓口の連絡先を示している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング等の機会を実施されている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者・交代要員及び職員で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 配慮は伺えるが、交代者がスムーズにいかない場合がある。 (外部評価) 運営者は職員採用に際し、3日間の実習期間を設け双方ともに勤務可否の判断を行なっている。職員の退職により補充する場合、後任が見つかるまでは管理者がシフトに入り、利用者のケアサービスに支障がないよう配慮している。新しい職員には指導係としてユニットリーダーが付き、共に行動する中で利用者との関係を築いている。		交代要員の増員を図っている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内の掲示等を行い、希望に応じて勤務調整を行い、職員のレベルアップを支援している。 (外部評価) 運営者は研修の必要性を認識しており、必要に応じ業務命令で職員を受講させている。また研修会開催情報を提供し、職員を受講希望に応じて勤務調整し、自己研鑽の機会づくりに積極的に取り組んでいる。受講者は報告書を作成し、ミーティング時に報告し、全員が内容を共有している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて少しずつ図れている。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に加入し、研修会や勉強会で交流する機会を持っている。運営者は事業者同士が協働しながら質の向上に取り組むためには同業者相互交流に基づく研修機会の必要性を認識している。	※	機会をみて、同じ考えを持つ事業所に呼びかけ、研修交流を目的とした職員の実務を伴う相互派遣の機会をつくる取り組みを行ない、さらなるサービスの質の向上を図ることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社の創立記念行事を機会に考えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修や勉強会の参加、役職の起用及び昇給等で感じられる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 変化があれば分かるので、何が言いたくしていいのかを聞き、納得されるまで対応している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会に来られた際に、ご家族とはよく話しができている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員同士で話し合い、すぐに対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) サービス開始前にご家族と相談しており、変化があれば再度ご家族と相談している。 <hr/> (外部評価) 管理者は利用開始にあたり家族と十分に話し合いを行なうようにしている。管理者は共に生活する中で、時間をかけ利用者の不安感を軽減している。新しく入った利用者に職員は常に寄り添い、話をよく聞き、利用者の言うことを否定せず受け止めることで、早期の信頼関係を築くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 敬老の精神をもって利用者に対し、場面によっては教えて頂いたり本人の力を発揮できる機会作りに配慮し、支え合い、共に暮らす関係を築いている過程である。 <hr/> (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩であるという考えで接しており、共に暮らす中で教えてもらったり支援してもらおう場面がある。またそういう場面が多くもてるように場面づくりや声かけを行なっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 各々家族来所時には近況を話し合い、利用者を共に支え合う関係として認識して頂けると思う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 情報交換をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔話しや子供さんや姉妹、兄弟の事について話をすると、特に喜ばれる。たまに電話を掛けてあげると嬉しそうに話している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係を把握し、ときに職員が間に入りフォローすることで、互いに助け合って暮らしていけるように努めている。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約が終了して、更に関わりが必要な方がいない。		発生した場合は、考えて対処したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で聴き取ったり、本人の言葉の中から見つけて汲み取っていくなどその時々思いや意向の把握に努めている。 (外部評価) 日々の関わりの中で聞き取ったり、本人の言葉から汲み取っていくなど、その時々思いや暮らし方の意向の把握に努めているが、職員各々が聞き知った生活歴や意向などの情報を集約したものは作成されていない。新しく入った職員は、必要時、先輩職員に聞くようにしている。	※	利用者一人ひとりにシートを作り、職員各々が得た情報を記録し、共有できるような方向で検討する。 職員各々が得た利用者一人ひとりの生活歴や意向などの情報を記録し、職員間で共有を図る取り組みを期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス利用者の相談の段階で、十分な聞き取りがまずできていない。日々の関わりの中で断片を拾い集め、把握に努めている。		センター方式、基本情報シート等の活用するなど、具体的に情報収集の手段を検討する。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で、本人の心身状態・有する力等を職員各自の気づきを大切にし、共有することで利用者の全体像の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日、ミーティング時にカンファレンスを行い、意見交換して介護計画を作成し、家族に説明の上承認して得ている。 (外部評価) 介護計画は全ての職員の気づきや意見を取り入れて、利用者本位の具体的な目標計画を作成している。運営者も参加し、利用者の視点で意見を述べるようにしている。利用者や家族には介護計画をわかりやすく説明し、話し合いを行なっている。		事前に利用者本人、家族と話し合い、それぞれの意向(気持ち)を介護計画に盛り込んで、利用者のためにより良いものにしていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じて評価・見直しは行っている。 (外部評価) 利用者の状況や事業所の現況を勘案し、介護計画の見直し期間を要介護認定更新時に行なうことに変更し、試みている。計画目標は1か月毎に評価を行なっている。状況の変化があれば、随時見直しをしている。		利用者の心身状態の変化に応じて、本人家族関係者と話し合い、速やかに新しい介護計画を作成するようにしていきたい。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にケース記録を記入し、仕事前には必ず一読し、不明な点等は口頭で申し送り、情報を共有している。しかし、口頭での申し送り内容に比べると記録自体は内容に乏しい観あり。		～しただけの記録ではなく、内容をもっと工夫・充実することが必要ではないかと思う。今後、様式・記録方法など改善していきたい。例) 本人の言葉・気づき・工夫・考察など。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 要望に対応できている。 (外部評価) 常勤の看護師が中心になって医療面の連携はスムーズに行なわれている。常勤看護師がいることは利用者、家族や介護職員の医療面での安心につながっている。事業所は通院介助や要望に応じ、出身地への旅行、観劇、カラオケ、墓参りなど支援している。ホームは人手の確保に苦慮しながらも個別性のある支援に積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特に必要事項が発生していませんが、適当な協力と支援は得られております。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて対処可能です。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて協働可能です。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を大切に、納得を得られたかかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。異変時には電話して常に連絡・対応できる体制を築いている。 (外部評価) 利用者と家族の希望を大切に、協力医療機関を含め連携して適切な医療を受けられるよう支援している。通院の際は看護師が付き添い、医師と情報交換している。必要に応じ、家族などへの状況報告を行っている。また緊急時には協力医療機関と24時間相談が可能な体制になっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 週2回、心療内科医の定期往診あり。利用者の心身状態の変化に応じて、(家族と相談・了承の上で) 随時、相談・診断・治療を受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護師により、利用者の日常の健康管理・医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者に対して協働及び連携は図れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ミーティングにおいて、施設長より方針については聞いている。 (外部評価) 終末期に対する基本方針を定めており、ミーティング時に取組みについて繰り返し話し合いを行ない統一を図っている。現在までに事例がないことから、利用者、家族や医師を交えての話し合いは行なわれていない。	※	利用者、家族、医師ならびにホーム側の考えや意向がずれたまま終末期を迎えることのないように、できるだけ早期から話し合いの機会を持ち、関係者全体の方針の統一を図る取組みを期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ミーティングの際、施設長より具体的な取組みについて何度も話し合いをしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今回、ユニット間異動の利用者に関しては、情報交換を行い、馴染みの職員による継続的ケアを行い、住み替えによるダメージの軽減に努めた。		ホーム外への住み替え時も利用者のダメージ防止の為に情報提供には協力していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重した言葉かけを常に心がけている。居室への出入り・トイレ時など常にノック・声かけをしてから行っている。 (外部評価) 職員は穏やかな口調で言葉かけを行なっている。運営者が一年の計として立て事業所内に掲示している「今年の具体的な方針」はプライドを傷つける言葉や態度に触れており、利用者のプライドを損ねない職員の対応の意識づけになっている。個人情報に関する書類はスタッフルームの鍵のかかる書庫に保管することになっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人の意志を尊重し、本人の意志力に応じて選択・納得できるように説明・言葉かけに工夫・配慮し、答えを待つ時間を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに基づく、個々のペースで生活できるように支援している。その時々で過ごし方を提案して、選んで頂いたり、本人からの希望を声に出して頂けるような雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 生活のリズムを守るための一日の過ごし方の基本は決めているが、職員は生活のリズムに配慮しながら、利用者一人ひとりのペースを見極めながら少し待つことを心がけ、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的こまめに訪問美容を利用して、思い思いのスタイルを楽しまれている。その人らしい身だしなみ・おしゃれができるように本人に選択をまかせてさりげなくフォローしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好み・力に応じて、献立作り・準備・食事・片付けを一緒に行っている。 (外部評価) 食材の買出し、調理、朝食の配膳など関わり方は各々であるが、食事が楽しみなものになるよう、食事に関する一連の作業の中で、利用者の好みや力に応じて声をかけ一緒にするようにしている。職員は食事介助しながら利用者と共に食事を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 喫煙に関しては、健康上・管理上の問題もあり、禁煙。おやつはリクエストを聞いたりして手作りしている。行事時には飲酒も楽しまれている方もいる。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態に応じて、布パンツ・紙パンツ・パットを組み合わせて使用し、スムーズな排泄ができるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 職員配置の問題もあり、曜日・時間帯は決まっているが、湯温・湯量・習慣等はできるだけ利用者の希望に添えるよう配慮している。 (外部評価) 入浴回数は決まっているが、湯量や湯温は利用者の好みに沿えるよう配慮している。身体状態などにより湯船に入ることが負担になる場合はシャワー浴や清拭で対応しており、また足浴器具なども適宜利用している。シャワー浴だけでも毎日入りたい利用者にはその習慣に合わせる対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 寝つきの悪い方には、側に付き添って安眠できるように配慮している。一人ひとりの生活ペースや体調等により、思い思いに休息できるように支援している。		昼夜逆転傾向のある利用者に対しての支援を考えていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好み・力に応じて、役割や楽しみの中で力を発揮できる場面を演出・支援している。 (外部評価) 好みや力に応じ、役割や楽しみの中で力を発揮する場面づくりを支援している。料理が得意な利用者には意向を確認して料理経験の少ない職員とペアを組み調理をしてもらう、リーダーシップがとれる方には幼稚園児との交流会で挨拶をしてもらう、洗濯物をたたむ、カラオケに行く、居間の花をいける、習字など楽しむ機会も多く設けている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、現在事業所で管理している。		お金を持つことの大切さ・遣う楽しさもあるので、お買物ツアーを企画したり、一人ひとりの力で希望に応じて支援していく方向で検討する。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日常的に一人ひとりの希望に応じて、散歩や買物に出る等戸外に出かけられるように支援している。(行くか行かないか、行き先はある程度限定されている。) (外部評価) 利用者一人ひとりの希望に応じ、買い物、外食、カラオケなど、また職員が出かける時に誘うなど戸外に出かける機会をつくる支援を積極的に行なっている。日課としている豊かな自然の中での散歩は外出用の車いすを多数用意し全員で出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別的に支援して、東京・北海道・沖縄等へ行きました。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者よりの希望に応じて電話をかける等の支援は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や馴染みの人が、気軽に訪問して頂けるように雰囲気作り・接遇に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		“～具体的な行為”について改めて学び、正しく理解して実践していきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には施錠していない。 (外部評価) 玄関の鍵は夜間の防犯目的以外には施錠していない。ホームの建物は二つあり、民家を改修し利用しているユニットは自然換気のため玄関を開放していることも多く、門扉には来訪者のためのブザーをつけ防犯上施錠しているが、利用者は庭に自由に出ることができ門扉の施錠は利用者の戸惑いにはなっていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握しながら、職員間で声かけ合って目くばり・気くばり・心くばりに努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は職員により管理されているが、一人ひとりの力・希望に応じて貸し出す(使用時は見守り、返却確認)ことにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット報告書を作成し、事故原因となるリスク解消について、職員間で話し合い事故防止に努めている。		今後、利用者一人ひとりの状態に応じて、どんな事故が起こりうるか、職員間で話し合い事故防止に努めたい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 事業所内の看護師により、応急手当等の訓練・研修を行いつつ、マニュアル化している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署が近く、積極的及び具体的に協力して頂いております。 (外部評価) 防災訓練を年2回行っており、防災マニュアルも作成されている。近くにある消防署とは、運営推進会議で災害に関する説明をうけるなど日々の中でも協力が得られている。地域住民との協力体制はできていないが、来年度を目途に大規模災害に備えて町内の防災対策計画があり、事業所も協力依頼されている。	※	町内の防災対策の計画にあたり、事業所で毎年行っている防災訓練の結果も踏まえて、事業所が協力できること、してもらいたいことを明確にし、地域の中での事業所として地域と連携し、利用者の安全確保に取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりの起こり得るリスクについて、看護師と管理者より家族と話しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日、定時にバイタルチェックを行い、一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努めている。又気付いた際には速やかに看護師・かかりつけ医に報告を行っている。		利用者一人ひとりのふだんの状態をよく知り、早期発見に努める。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、医療ノートにより一人ひとりが使用している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援し、飲み切るまで見守り確認を行っている。又、症状の変化の確認に努め、看護師に報告している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 職員は、便秘予防と対応のために薬に頼るのではなく、繊維質の多い献立や冷乳を飲んだり、温浴法・腹部マッサージを施したり、身体を動かす等の工夫・提案・支援を行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを理解し、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		ある利用者は、“怖いから自分でやります”と支援困難な方もいらっしゃるので、今後その方の支援について職員で話し合っており取り組んでいきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本献立として、栄養バランス・水分量が一目通じて確保できるよう工夫している。必要時には水分量チェックを行い、水分量の把握に努めている。 (外部評価) 食事構成の基本である一汁三菜をとり入れた食事となっている。過去の記録により、一人ひとりの適量を盛り付け、全食摂取している。水分補給は毎食汁物をつける、体を動かした後の水分補給など意識的に摂取の機会を設けている。	※	保健センターの栄養士などにより、栄養アセスメント・塩分量のチェックを実施し、献立作りに活かしていきたい。 利用者の年齢層が幅広いため、栄養摂取量が利用者一人ひとりの日々の活動量に見合ったものになっているか等について協力医療機関の栄養士等に専門的な観点からのアドバイスを得る取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し、それに従って予防・防止に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 献立を変えたりすることで、新鮮な食材を早めに使い切れるように工夫している。毎日使用した台所用品は、用途・材質に適した方法で消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関回りには、四季折々に花が見れるよう工夫・手入れされており、段差にはスロープが設けられている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 散歩で摘んだ草花を飾ったり、季節感のある品を飾ったりして生活感や季節感のある暮らしを演出する工夫をしている。 (外部評価) 季節の花を飾り、利用者と職員が一緒に作った季節感のある貼り絵を居間の装飾品の一つとして飾っている。エアコンと扇風機を併用して適温の風をつくり、空気がよどまないよう、また直接エアコンの冷気が利用者に当たらないようにし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下には、椅子やソファを配置して、思い思いの場所でくつろげるように工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具・衣類・お仏壇などを自由に持ち込んで頂いて本人が居心地よい空間作りができています。 (外部評価) ベット、タンス類、仏壇、テレビ、電話機や手芸道具、写真、手作りの装飾品など思い思いに持ち込みその人らしく過ごせる部屋になっている。		一部、本人の状態により実現できていない居室もある。今後どうするかご家族とも相談して考えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 常に換気には気を配り、設定温度を設けて、それに応じてクーラー等の使用により快適な環境を作っている。又、利用者一人ひとりの好み・状態に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下など要所には手すりを設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室には目線の高さによくわかる表札が掛かっている。又、居室のレイアウトは混乱を防ぐため、変更しないようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外回りは、プランターや植木があり、季節により花や緑が楽しめるようになっている。しかし、現在、利用者は見て楽しむためのものに限定されている。		ベランダ園芸など自分で種をまき、育てる楽しみにも取り組んでいきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	日々の関わりの中で、利用者の思いの聴き取りに努めていますが、十分にできていない方もいます。その時々のお思いを受け入れて、大切にしていきたいと思っております。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	散歩に出かけた時など、世間話をしながらゆったりと過ごせている。ところが、ホームでは職員は立ち働いている姿が忙しく感じられているのではないのでしょうか。立ち止まり、手を休めて、腰を落ち着けて寄り添う時間を増やしていく。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者は、思い思いのペースで暮らしていると思う。ホームの一日の流れに随分と馴染んでおられるように感じられる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	いろいろな場面で、笑顔がみられます。もっと多くの笑顔がみられ、楽しんで持てる力を発揮できるような場面作りを支援していきたい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員の勤務体制もあり、行きたい時に行きたい所へ出掛ける（一人ひとりが）事は、できていない。不穩時の対応として、なんとか都合して行うことはある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員は、利用者の日頃の様子・状態を把握して、常に見守りを行っている。異変時には、速やかに管理者・看護師に報告、かかりつけ医に連絡している。夜間では、かかりつけ医との連絡体制ができています。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者の要望や状況に応じ、職員間で調整したり、申し合わせ、共有することにより、可能な限り柔軟に支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	面会時などお話を伺うようにしているが、家族により利用者との関係に温度差があり、物理的理由等により頻度にも差があるため、充分とは言いがたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	近所の人や近くの幼稚園児が来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	町内会長様からは、庭園やイルミネーションを見に来るよう誘っていただき、高齢見守り員様からは、入居者の紹介を受けております。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の確保・定着が難しい。モチベーションに影響していると思います。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何をもって満足とするかは、一人ひとり違っていると思うが、プラスアルファの部分が今後の課題ではないかと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	謙虚にサービスの向上を図っていかねばと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

“行列ができるグループホーム”を目指しております!!入居者にとって最高の人気であり、職員にとっても最高の誇りと共に、入居者と職員の最高の優遇化の源です!!

《入居率は、最高のバロメーターです!!》

※お蔭様で弊所“グループホームみゆき”は、96%↑を維持しております。今年6月3日からは100%です!!

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念を“家訓”としてサービスの核(方針)としている。 (外部評価) 「家訓」というかたちで示した理念は、家庭的な環境のもとで利用者の暮らしを支援することを主に目指したものである。開設6年を経過し、地域の中で、生活者として利用者と職員の暮らしが実践されている。さらに運営者は理念を具体化させ一年の計として「今年の具体的方針」を毎年示している。	※	地域の中での日々のケアサービスのあり方の共有を図るための意識づけとして、今ある理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフルームなど要所に掲示し、ミーティング時には必ず音読し、徹底に努めている。 (外部評価) スタッフルームなどに掲示し、ミーティング時に必ずふれ、確認しあっている。管理者は、具体的に理念を伝える手段として、言葉での説明よりも実際の現場で自らが実践する(してみせる)ことをモットーにしている。また職員は管理者の一貫した利用者本位のケアサービスの姿勢を手本にしている。		職員への意識向けには成果がみられるものの、毎日の中で理念に根ざしたケアが実践できるように努めたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 散歩・買物等日常生活時に「迷惑」を掛けないようにしており、近所の方からは褒められます。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 外出時などお会いした際には、挨拶を交し合うことはあるが、個人レベルでの付き合いはできていない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ほとんど毎日の散歩で近所の人と顔見知りになり、可愛がられます。 (外部評価) 開設当初より自治会に加入し、町内の祭りごとに協力する、日課の散歩の際には積極的に挨拶する、中学生ボランティア体験学習受け入れや地域の幼稚園との交流など地域との関わりを積極的に持つことに努めており、地域の一員としての基盤作りはできている。	※	さらなる段階として、利用者一人ひとりが主人公となり、地域の一員として普段のご近所づきあいなどあたりまえの暮らしが継続できる取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 微力ですが、社員一同で取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 各人は評価の意義を理解し、評価項目を通して振り返り、よい機会となっている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義や活かし方を理解している。今回の自己評価は、各ユニットリーダーの気づきをベースに職員の気づきを補足し、ケアマネジャーが一つにまとめ、意識合わせを行なった。前回の外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて話し合い実践につなげる取り組みを行なっている。	※	今後、評価を通じて明らかとなった改善点については、施設を挙げて、計画的かつ積極的に取り組んでいきたい。 職員は自己評価の項目一つひとつを各人が評価していくことから、日々の自分を振り返ることができること認識し、自己評価に前向きに取り組む姿勢がある。次回自己評価の仕方については、職員の意向に沿った取り組みを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 議題のメインになって、サービスの向上が図れます。 (外部評価) 会議は定期的で開催され、事業所の現状、外部評価結果や取り組み内容など報告している。また、メンバーからも意見や要望があり、双方向的な話し合いが行なわれている。メンバーから入居希望者の紹介をいただくこともある。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 研修会に於いて同席し、共に取り組んでいます。 (外部評価) 運営者が福祉用具貸与・販売会社で、従来より市に出向いており、その関係から、折に触れ事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、サービスの質の向上に向けた協働関係がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、制度の活用を必要としている利用者はいないが、ミーティングで勉強をしています。		今後、研修会などに参加し、勉強したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 人としていかなる意味においても、虐待は行われるべきではないと理解できている。しかし、法についてはこれから学んでいきたい。		高齢者虐待防止関係法について、学ぶ機会を設け周知徹底に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には、利用者やその家族等には必ず十分な説明を行い、理解を得た上で行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 特に施設長が気を使い、努力されている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 各々家族来所時には、利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理等の報告を行っている。又異変時には早急に報告を行っている。 (外部評価) 面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。日々の暮らしぶりが垣間見れる写真入りの便りを随時送付している。変化や課題があるときはその都度電話で報告・相談している。金銭については、日常生活に必要な額を預り、金銭出納帳で管理し、詳細を報告し、確認のサインをもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 問題が発生しないよう、それとなく対処できている。 (外部評価) 面会時に職員から声かけし、要望などを積極的に聞くように努めている。意見や要望を受けた時は記録に残し、話し合いながら運営に反映させている。速やかに対応する職員の姿勢に、家族は意見を言いやすく相談しやすさを感じている。苦情相談については契約書に明示し、重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口と公的窓口の連絡先を示している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング等の機会を実施されている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者・交代要員及び職員で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 配慮は伺えるが、交代者がスムーズにいかない場合がある。 (外部評価) 運営者は職員採用に際し、3日間の実習期間を設け双方ともに勤務可否の判断を行なっている。職員の退職により補充する場合、後任が見つかるまでは管理者がシフトに入り、利用者のケアサービスに支障がないよう配慮している。新しい職員には指導係としてユニットリーダーが付き、共に行動する中で利用者との馴染みの関係を築いている。		交代要員の増員を図っている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内の掲示等を行い、希望に応じて勤務調整を行い、職員のレベルアップを支援している。 (外部評価) 運営者は研修の必要性を認識しており、必要に応じ業務命令で職員を受講させている。また研修会開催情報を提供し、職員の受講希望に応じて勤務調整し、自己研鑽の機会づくりに積極的に取り組んでいる。受講者は報告書を作成し、ミーティング時に報告し、全員が内容を共有している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて少しずつ図れている。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に加入し、研修会や勉強会で交流する機会を持っている。運営者は事業者同士が協働しながら質の向上に取り組むためには同業者相互交流に基づく研修機会の必要性を認識している。	※	機会をみて、同じ考えを持つ事業所に呼びかけ、研修交流を目的とした職員の実務を伴う相互派遣の機会をつくる取り組みを行ない、さらなるサービスの質の向上を図ることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社の創立記念行事を機会に考えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修や勉強会の参加、役職の起用及び昇給等で感じられる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 変化があれば分かるので、何が言いたくしていいのかを聞き、納得されるまで対応している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会に来られた際に、ご家族とはよく話しができている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員同士で話し合い、すぐに対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) サービス開始前にご家族と相談しており、変化があれば再度ご家族と相談している。 <hr/> (外部評価) 管理者は利用開始にあたり家族と十分に話し合いを行なうようにしている。管理者は共に生活する中で、時間をかけ利用者の不安感を軽減している。新しく入った利用者に職員は常に寄り添い、話をよく聞き、利用者の言うことを否定せず受け止めることで、早期の信頼関係を築くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 敬老の精神をもって利用者に対し、場面によっては教えて頂いたり本人の力を発揮できる機会作りに配慮し、支え合い、共に暮らす関係を築いている過程である。 <hr/> (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩であるという考えで接しており、共に暮らす中で教えてもらったり支援してもらおう場面がある。またそういう場面が多くもてるように場面づくりや声かけを行なっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 各々家族来所時には近況を話し合い、利用者を共に支え合う関係として認識して頂けると思う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 情報交換をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔話しや子供さんや姉妹、兄弟の事について話をすると、特に喜ばれる。たまに電話を掛けてあげると嬉しそうに話している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係を把握し、ときに職員が間に入りフォローすることで、互いに助け合って暮らしていけるように努めている。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約が終了して、更に関わりが必要な方がいない。		発生した場合は、考えて対処したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で聴き取ったり、本人の言葉の中から見つけて汲み取っていくなどその時々思いや意向の把握に努めている。 (外部評価) 日々の関わりの中で聞き取ったり、本人の言葉から汲み取っていくなど、その時々思いや暮らし方の意向の把握に努めているが、職員各々が聞き知った生活歴や意向などの情報を集約したものは作成されていない。新しく入った職員は、必要時、先輩職員に聞くようにしている。	※	利用者一人ひとりにシートを作り、職員各々が得た情報を記録し、共有できるような方向で検討する。 職員各々が得た利用者一人ひとりの生活歴や意向などの情報を記録し、職員間で共有を図る取り組みを期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス利用者の相談の段階で、十分な聞き取りがまずできていない。日々の関わりの中で断片を拾い集め、把握に努めている。		センター方式、基本情報シート等の活用するなど、具体的に情報収集の手段を検討する。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で、本人の心身状態・有する力等を職員各自の気づきを大切にし、共有することで利用者の全体像の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日、ミーティング時にカンファレンスを行い、意見交換して介護計画を作成し、家族に説明の上承認して得ている。 (外部評価) 介護計画は全ての職員の気づきや意見を取り入れて、利用者本位の具体的な目標計画を作成している。運営者も参加し、利用者の視点で意見を述べるようにしている。利用者や家族には介護計画をわかりやすく説明し、話し合いを行なっている。		事前に利用者本人、家族と話し合い、それぞれの意向(気持ち)を介護計画に盛り込んで、利用者のためにより良いものにしていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じて評価・見直しは行っている。 (外部評価) 利用者の状況や事業所の現況を勘案し、介護計画の見直し期間を要介護認定更新時に行なうことに変更し、試みている。計画目標は1か月毎に評価を行なっている。状況の変化があれば、随時見直しをしている。		利用者の心身状態の変化に応じて、本人家族関係者と話し合い、速やかに新しい介護計画を作成するようにしていきたい。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にケース記録を記入し、仕事前には必ず一読し、不明な点等は口頭で申し送り、情報を共有している。しかし、口頭での申し送り内容に比べると記録自体は内容に乏しい観あり。		～しただけの記録ではなく、内容をもっと工夫・充実することが必要ではないかと思う。今後、様式・記録方法など改善していきたい。例) 本人の言葉・気づき・工夫・考察など。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 要望に対応できている。 (外部評価) 常勤の看護師が中心になって医療面の連携はスムーズに行なわれている。常勤看護師がいることは利用者、家族や介護職員の医療面での安心につながっている。事業所は通院介助や要望に応じ、出身地への旅行、観劇、カラオケ、墓参りなど支援している。ホームは人手の確保に苦慮しながらも個別性のある支援に積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特に必要事項が発生していませんが、適当な協力と支援は得られております。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて対処可能です。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて協働可能です。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を大切に、納得を得られたかかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。異変時には電話して常に連絡・対応できる体制を築いている。 (外部評価) 利用者と家族の希望を大切に、協力医療機関を含め連携して適切な医療を受けられるよう支援している。通院の際は看護師が付き添い、医師と情報交換している。必要に応じ、家族などへの状況報告を行っている。また緊急時には協力医療機関と24時間相談が可能な体制になっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 週2回、心療内科医の定期往診あり。利用者の心身状態の変化に応じて、(家族と相談・了承の上で) 随時、相談・診断・治療を受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護師により、利用者の日常の健康管理・医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者に対して協働及び連携は図れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ミーティングにおいて、施設長より方針については聞いている。 (外部評価) 終末期に対する基本方針を定めており、ミーティング時に取組みについて繰り返し話し合いを行ない統一を図っている。現在までに事例がないことから、利用者、家族や医師を交えての話し合いは行なわれていない。	※	利用者、家族、医師ならびにホーム側の考えや意向がズレたまま終末期を迎えることのないように、できるだけ早期から話し合いの機会を持ち、関係者全体の方針の統一を図る取組みを期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ミーティングの際、施設長より具体的な取組みについて何度も話し合いをしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今回、ユニット間異動の利用者に関しては、情報交換を行い、馴染みの職員による継続的ケアを行い、住み替えによるダメージの軽減に努めた。		ホーム外への住み替え時も利用者のダメージ防止の為に情報提供には協力していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重した言葉かけを常に心がけている。居室への出入り・トイレ時など常にノック・声かけをしてから行っている。 (外部評価) 職員は穏やかな口調で言葉かけを行なっている。運営者が一年の計として立て事業所内に掲示している「今年の具体的な方針」はプライドを傷つける言葉や態度に触れており、利用者のプライドを損ねない職員の対応の意識づけになっている。個人情報に関する書類はスタッフルームの鍵のかかる書庫に保管することになっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人の意志を尊重し、本人の意志力に応じて選択・納得できるように説明・言葉かけに工夫・配慮し、答えを待つ時間を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに基づく、個々のペースで生活できるように支援している。その時々で過ごし方を提案して、選んで頂いたり、本人からの希望を声に出して頂けるような雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 生活のリズムを守るための一日の過ごし方の基本は決めているが、職員は生活のリズムに配慮しながら、利用者一人ひとりのペースを見極めながら少し待つことを心がけ、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的にくまめに訪問美容を利用して、思い思いのスタイルを楽しまれている。その人らしい身だしなみ・おしゃれができるように本人に選択をまかせてさりげなくフォローしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好み・力に応じて、献立作り・準備・食事・片付けを一緒に行っている。 (外部評価) 食材の買出し、調理、朝食の配膳など関わり方は各々であるが、食事が楽しみなものになるよう、食事に関する一連の作業の中で、利用者の好みや力に応じて声をかけ一緒にするようにしている。職員は食事介助しながら利用者と共に食事を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 喫煙に関しては、健康上・管理上の問題もあり、禁煙。おやつはリクエストを聞いたりして手作りしている。行事時には飲酒も楽しまれている方もいる。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態に応じて、布パンツ・紙パンツ・パットを組み合わせて使用し、スムーズな排泄ができるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 職員配置の問題もあり、曜日・時間帯は決まっているが、湯温・湯量・習慣等ではできるだけ利用者の希望に添えるよう配慮している。 (外部評価) 入浴回数は決まっているが、湯量や湯温は利用者の好みに沿えるよう配慮している。身体状態などにより湯船に入ることが負担になる場合はシャワー浴や清拭で対応しており、また足浴器具なども適宜利用している。シャワー浴だけでも毎日入りたい利用者にはその習慣に合わせる対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 寝つきの悪い方には、側に付き添って安眠できるように配慮している。一人ひとりの生活ペースや体調等により、思い思いに休息できるように支援している。		昼夜逆転傾向のある利用者に対しての支援を考えていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好み・力に応じて、役割や楽しみの中で力を発揮できる場面を演出・支援している。 (外部評価) 好みや力に応じ、役割や楽しみの中で力を発揮する場面づくりを支援している。料理が得意な利用者には意向を確認して料理経験の少ない職員とペアを組み調理をしてもらう、リーダーシップがとれる方には幼稚園児との交流会で挨拶をしてもらう、洗濯物をたたむ、カラオケに行く、居間の花をいける、習字など楽しむ機会も多く設けている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、現在事業所で管理している。		お金を持つことの大切さ・遣う楽しさもあるので、お買物ツアーを企画したり、一人ひとりの力で希望に応じて支援していく方向で検討する。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日常的に一人ひとりの希望に応じて、散歩や買物に出る等戸外に出かけられるように支援している。(行くか行かないか、行き先はある程度限定されている。) (外部評価) 利用者一人ひとりの希望に応じ、買い物、外食、カラオケなど、また職員が出かける時に誘うなど戸外に出かける機会をつくる支援を積極的に行なっている。日課としている豊かな自然の中での散歩は外出用の車いすを多数用意し全員で出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別的に支援して、東京・北海道・沖縄等へ行きました。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者よりの希望に応じて電話をかける等の支援は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や馴染みの人が、気軽に訪問して頂けるように雰囲気作り・接遇に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		“～具体的な行為”について改めて学び、正しく理解して実践していきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には施錠していない。 (外部評価) 玄関の鍵は夜間の防犯目的以外には施錠していない。ホームの建物は二つあり、民家を改修し利用しているユニットは自然換気のため玄関を開放していることも多く、門扉には来訪者のためのブザーをつけ防犯上施錠しているが、利用者は庭に自由に出ることができ門扉の施錠は利用者の戸惑いにはなっていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握しながら、職員間で声かけ合って目くばり・気くばり・心くばりに努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は職員により管理されているが、一人ひとりの力・希望に応じて貸し出す(使用時は見守り、返却確認)ことにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット報告書を作成し、事故原因となるリスク解消について、職員間で話し合い事故防止に努めている。		今後、利用者一人ひとりの状態に応じて、どんな事故が起こりうるか、職員間で話し合い事故防止に努めたい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 事業所内の看護師により、応急手当等の訓練・研修を行いつつ、マニュアル化している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署が近く、積極的及び具体的に協力して頂いております。 (外部評価) 防災訓練を年2回行っており、防災マニュアルも作成されている。近くにある消防署とは、運営推進会議で災害に関する説明をうけるなど日々の中でも協力が得られている。地域住民との協力体制はできていないが、来年度を目途に大規模災害に備えて町内の防災対策計画があり、事業所も協力依頼されている。	※	町内の防災対策の計画にあたり、事業所で毎年行っている防災訓練の結果も踏まえて、事業所が協力できること、してもらいたいことを明確にし、地域の中での事業所として地域と連携し、利用者の安全確保に取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりの起こり得るリスクについて、看護師と管理者より家族と話しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日、定時にバイタルチェックを行い、一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努めている。又気付いた際には速やかに看護師・かかりつけ医に報告を行っている。		利用者一人ひとりのふだんの状態をよく知り、早期発見に努める。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、医療ノートにより一人ひとりが使用している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援し、飲み切るまで見守り確認を行っている。又、症状の変化の確認に努め、看護師に報告している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 職員は、便秘予防と対応のために薬に頼るのではなく、繊維質の多い献立や冷乳を飲んだり、温浴法・腹部マッサージを施したり、身体を動かす等の工夫・提案・支援を行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを理解し、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		ある利用者は、“怖いから自分でやります”と支援困難な方もいらっしゃるので、今後その方の支援について職員で話し合っており取り組んでいきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本献立として、栄養バランス・水分量が目通じて確保できるよう工夫している。必要時には水分量チェックを行い、水分量の把握に努めている。 (外部評価) 食事構成の基本である一汁三菜をとり入れた食事となっている。過去の記録により、一人ひとりの適量を盛り付け、全食摂取している。水分補給は毎食汁物をつける、体を動かした後の水分補給など意識的に摂取の機会を設けている。	※	保健センターの栄養士などにより、栄養アセスメント・塩分量のチェックを実施し、献立作りに活かしていきたい。 利用者の年齢層が幅広いため、栄養摂取量が利用者一人ひとりの日々の活動量に見合ったものになっているか等について協力医療機関の栄養士等に専門的な観点からのアドバイスを得る取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し、それに従って予防・防止に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 献立を変えたりすることで、新鮮な食材を早めに使い切れるように工夫している。毎日使用した台所用品は、用途・材質に適した方法で消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関回りには、四季折々に花が見れるよう工夫・手入れされており、段差にはスロープが設けられている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 散歩で摘んだ草花を飾ったり、季節感のある品を飾ったりして生活感や季節感のある暮らしを演出する工夫をしている。 (外部評価) 季節の花を飾り、利用者と職員が一緒に作った季節感のある貼り絵を居間の装飾品の一つとして飾っている。エアコンと扇風機を併用して適温の風をつくり、空気がよどまないよう、また直接エアコンの冷気が利用者に当たらないようにし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下には、椅子やソファを配置して、思い思いの場所でくつろげるように工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具・衣類・お仏壇などを自由に持ち込んで頂いて本人が居心地よい空間作りができています。 (外部評価) ベット、タンス類、仏壇、テレビ、電話機や手芸道具、写真、手作りの装飾品など思い思いに持ち込みその人らしく過ごせる部屋になっている。		一部、本人の状態により実現できていない居室もある。今後どうするかご家族とも相談して考えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 常に換気には気を配り、設定温度を設けて、それに応じてクーラー等の使用により快適な環境を作っている。又、利用者一人ひとりの好み・状態に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下など要所には手すりを設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室には目線の高さによくわかる表札が掛かっている。又、居室のレイアウトは混乱を防ぐため、変更しないようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外回りは、プランターや植木があり、季節により花や緑が楽しめるようになっている。しかし、現在、利用者は見て楽しむためのものに限定されている。		ベランダ園芸など自分で種をまき、育てる楽しみにも取り組んでいきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	日々の関わりの中で、利用者の思いの聴き取りに努めていますが、十分にできていない方もいます。その時々のお思いを受け入れて、大切にしていきたいと思っております。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	散歩に出かけた時など、世間話をしながらゆったりと過ごさせている。ところが、ホームでは職員は立ち働いている姿が忙しく感じられているのではないのでしょうか。立ち止まり、手を休めて、腰を落ち着けて寄り添う時間を増やしていく。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者は、思い思いのペースで暮らしていると思う。ホームの一日の流れに随分と馴染んでおられるように感じられる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	いろいろな場面で、笑顔がみられます。もっと多くの笑顔がみられ、楽しんで持てる力を発揮できるような場面作りを支援していきたい。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員の勤務体制もあり、行きたい時に行きたい所へ出掛ける（一人ひとりが）事は、できていない。不穩時の対応として、なんとか都合して行うことはある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	職員は、利用者の日頃の様子・状態を把握して、常に見守りを行っている。異変時には、速やかに管理者・看護師に報告、かかりつけ医に連絡している。夜間では、かかりつけ医との連絡体制ができています。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	利用者の要望や状況に応じ、職員間で調整したり、申し合わせ、共有することにより、可能な限り柔軟に支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	面会時などお話を伺うようにしているが、家族により利用者との関係に温度差があり、物理的理由等により頻度にも差があるため、充分とは言いがたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	近所の人や近くの幼稚園児が来てくれる。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	町内会長様からは、庭園やイルミネーションを見に来るよう誘っていただき、高齢見守り員様からは、入居者の紹介を受けております。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の確保・定着が難しい。モチベーションに影響していると思います。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何をもって満足とするかは、一人ひとり違っていると思うが、プラスアルファの部分が今後の課題ではないかと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	謙虚にサービスの向上を図っていかねばと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

“行列ができるグループホーム”を目指しております!!入居者にとって最高の人気であり、職員にとっても最高の誇りと共に、入居者と職員の最高の優遇化の源です!!

《入居率は、最高のバロメーターです!!》

※お蔭様で弊所“グループホームみゆき”は、96%↑を維持しております。今年6月3日からは100%です!!

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 株式会社 イヨメディカル

(ユニット名) みゆき2F

記入者(管理者)

氏名 篠崎 道子

評価完了日

19年 7月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念を“家訓”としてサービスの核(方針)としている。 (外部評価) 「家訓」というかたちで示した理念は、家庭的な環境のもとで利用者の暮らしを支援することを主に目指したものである。開設6年を経過し、地域の中で、生活者として利用者と職員の暮らしが実践されている。さらに運営者は理念を具体化させ一年の計として「今年の具体的方針」を毎年示している。	※	地域の中で日々のケアサービスのあり方の共有を図るための意識づけとして、今ある理念に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフルームなど要所に掲示し、ミーティング時には必ず音読し、徹底に努めている。 (外部評価) スタッフルームなどに掲示し、ミーティング時に必ずふれ、確認しあっている。管理者は、具体的に理念を伝える手段として、言葉での説明よりも実際の現場で自らが実践する(してみせる)ことをモットーにしている。また職員は管理者の一貫した利用者本位のケアサービスの姿勢を手本にしている。		職員への意識向けには成果がみられるものの、毎日の中で理念に根ざしたケアが実践できるように努めたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 散歩・買物等日常生活時に「迷惑」を掛けないようにしており、近所の方からは褒められます。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 外出時などお会いした際には、挨拶を交し合うことはあるが、個人レベルでの付き合いはできていない。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) ほとんど毎日の散歩で近所の人と顔見知りになり、可愛がられます。 (外部評価) 開設当初より自治会に加入し、町内の祭りごとに協力する、日課の散歩の際には積極的に挨拶する、中学生ボランティア体験学習受け入れや地域の幼稚園との交流など地域との関わりを積極的に持つことに努めており、地域の一員としての基盤作りはできている。	※	さらなる段階として、利用者一人ひとりが主人公となり、地域の一員として普段のご近所づきあいなどあたりまえの暮らしが継続できる取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 微力ですが、社員一同で取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 各人は評価の意義を理解し、評価項目を通して振り返り、よい機会となっている。 (外部評価) 運営者、管理者、職員は評価の意義や活かし方を理解している。今回の自己評価は、各ユニットリーダーの気づきをベースに職員の気づきを補足し、ケアマネジャーが一つにまとめ、意識合わせを行なった。前回の外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて話し合い実践につなげる取り組みを行なっている。	※	今後、評価を通じて明らかとなった改善点については、施設を挙げて、計画的かつ積極的に取り組んでいきたい。 職員は自己評価の項目一つひとつを各人が評価していくことから、日々の自分を振り返ることができることと認識し、自己評価に前向きに取り組む姿勢がある。次回自己評価の仕方については、職員の意向に沿った取り組みを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 議題のメインになって、サービスの向上が図れます。 (外部評価) 会議は定期的で開催され、事業所の現状、外部評価結果や取り組み内容など報告している。また、メンバーからも意見や要望があり、双方向的な話し合いが行なわれている。メンバーから入居希望者の紹介をいただくこともある。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 研修会に於いて同席し、共に取り組んでいます。 (外部評価) 運営者が福祉用具貸与・販売会社で、従来より市に出向いており、その関係から、折に触れ事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、サービスの質の向上に向けた協働関係がある。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、制度の活用を必要としている利用者はいないが、ミーティングで勉強をしています。		今後、研修会などに参加し、勉強したい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 人としていかなる意味においても、虐待は行われるべきではないと理解できている。しかし、法についてはこれから学んでいきたい。		高齢者虐待防止関係法について、学ぶ機会を設け周知徹底に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には、利用者やその家族等には必ず十分な説明を行い、理解を得た上で行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 特に施設長が気を使い、努力されている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 各々家族来所時には、利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理等の報告を行っている。又異変時には早急に報告を行っている。 (外部評価) 面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。日々の暮らしぶりが垣間見れる写真入りの便りを随時送付している。変化や課題があるときはその都度電話で報告・相談している。金銭については、日常生活に必要な額を預り、金銭出納帳で管理し、詳細を報告し、確認のサインをもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 問題が発生しないよう、それとなく対処できている。 (外部評価) 面会時に職員から声かけし、要望などを積極的に聞くように努めている。意見や要望を受けた時は記録に残し、話し合いながら運営に反映させている。速やかに対応する職員の姿勢に、家族は意見を言いやすく相談しやすさを感じている。苦情相談については契約書に明示し、重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口と公的窓口の連絡先を示している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティング等の機会を実施されている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者・交代要員及び職員で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 配慮は伺えるが、交代者がスムーズにいかない場合がある。 (外部評価) 運営者は職員採用に際し、3日間の実習期間を設け双方ともに勤務可否の判断を行なっている。職員の退職により補充する場合、後任が見つかるまでは管理者がシフトに入り、利用者のケアサービスに支障がないよう配慮している。新しい職員には指導係としてユニットリーダーが付き、共に行動する中で利用者との関係を築いている。		交代要員の増員を図っている。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内の掲示等を行い、希望に応じて勤務調整を行い、職員のレベルアップを支援している。 (外部評価) 運営者は研修の必要性を認識しており、必要に応じ業務命令で職員を受講させている。また研修会開催情報を提供し、職員を受講希望に応じて勤務調整し、自己研鑽の機会づくりに積極的に取り組んでいる。受講者は報告書を作成し、ミーティング時に報告し、全員が内容を共有している。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて少しずつ図れている。 (外部評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に加入し、研修会や勉強会で交流する機会を持っている。運営者は事業者同士が協働しながら質の向上に取り組むためには同業者相互交流に基づく研修機会の必要性を認識している。	※	機会をみて、同じ考えを持つ事業所に呼びかけ、研修交流を目的とした職員の実務を伴う相互派遣の機会をつくる取り組みを行ない、さらなるサービスの質の向上を図ることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 会社の創立記念行事を機会に考えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修や勉強会の参加、役職の起用及び昇給等で感じられる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 変化があれば分かるので、何が言いたくしていいのかを聞き、納得されるまで対応している。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会に来られた際に、ご家族とはよく話しができている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員同士で話し合い、すぐに対応している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) サービス開始前にご家族と相談しており、変化があれば再度ご家族と相談している。 <hr/> (外部評価) 管理者は利用開始にあたり家族と十分に話し合いを行なうようにしている。管理者は共に生活する中で、時間をかけ利用者の不安感を軽減している。新しく入った利用者に職員は常に寄り添い、話をよく聞き、利用者の言うことを否定せず受け止めることで、早期の信頼関係を築くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 敬老の精神をもって利用者に対し、場面によっては教えて頂いたり本人の力を発揮できる機会作りに配慮し、支え合い、共に暮らす関係を築いている過程である。 <hr/> (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩であるという考えで接しており、共に暮らす中で教えてもらったり支援してもらおう場面がある。またそういう場面が多くもてるように場面づくりや声かけを行なっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 各々家族来所時には近況を話し合い、利用者を共に支え合う関係として認識して頂けると思う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 情報交換をしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔話しや子供さんや姉妹、兄弟の事について話をすると、特に喜ばれる。たまに電話を掛けてあげると嬉しそうに話している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係を把握し、ときに職員が間に入りフォローすることで、互いに助け合って暮らしていけるように努めている。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約が終了して、更に関わりが必要な方がいない。		発生した場合は、考えて対処したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で聴き取ったり、本人の言葉の中から見つけて汲み取っていくなどその時々思いや意向の把握に努めている。 (外部評価) 日々の関わりの中で聞き取ったり、本人の言葉から汲み取っていくなど、その時々思いや暮らし方の意向の把握に努めているが、職員各々が聞き知った生活歴や意向などの情報を集約したものは作成されていない。新しく入った職員は、必要時、先輩職員に聞くようにしている。	※	利用者一人ひとりにシートを作り、職員各々が得た情報を記録し、共有できるような方向で検討する。 職員各々が得た利用者一人ひとりの生活歴や意向などの情報を記録し、職員間で共有を図る取り組みを期待する。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス利用者の相談の段階で、十分な聞き取りがまずできていない。日々の関わりの中で断片を拾い集め、把握に努めている。		センター方式、基本情報シート等の活用するなど、具体的に情報収集の手段を検討する。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で、本人の心身状態・有する力等を職員各自の気づきを大切にし、共有することで利用者の全体像の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日、ミーティング時にカンファレンスを行い、意見交換して介護計画を作成し、家族に説明の上承認して得ている。 (外部評価) 介護計画は全ての職員の気づきや意見を取り入れて、利用者本位の具体的な目標計画を作成している。運営者も参加し、利用者の視点で意見を述べるようにしている。利用者や家族には介護計画をわかりやすく説明し、話し合いを行なっている。		事前に利用者本人、家族と話し合い、それぞれの意向(気持ち)を介護計画に盛り込んで、利用者のためにより良いものにしていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間に応じて評価・見直しは行っている。 (外部評価) 利用者の状況や事業所の現況を勘案し、介護計画の見直し期間を要介護認定更新時に行なうことに変更し、試みている。計画目標は1か月毎に評価を行なっている。状況の変化があれば、随時見直しをしている。		利用者の心身状態の変化に応じて、本人家族関係者と話し合い、速やかに新しい介護計画を作成するようにしていきたい。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にケース記録を記入し、仕事前には必ず一読し、不明な点等は口頭で申し送り、情報を共有している。しかし、口頭での申し送り内容に比べると記録自体は内容に乏しい観あり。		～しただけの記録ではなく、内容をもっと工夫・充実することが必要ではないかと思う。今後、様式・記録方法など改善していきたい。例) 本人の言葉・気づき・工夫・考察など。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 要望に対応できている。 (外部評価) 常勤の看護師が中心になって医療面の連携はスムーズに行なわれている。常勤看護師がいることは利用者、家族や介護職員の医療面での安心につながっている。事業所は通院介助や要望に応じ、出身地への旅行、観劇、カラオケ、墓参りなど支援している。ホームは人手の確保に苦慮しながらも個別性のある支援に積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 特に必要事項が発生していませんが、適当な協力と支援は得られております。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて対処可能です。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要に応じて協働可能です。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族等の希望を大切に、納得を得られたかかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。異変時には電話して常に連絡・対応できる体制を築いている。 (外部評価) 利用者と家族の希望を大切に、協力医療機関を含め連携して適切な医療を受けられるよう支援している。通院の際は看護師が付き添い、医師と情報交換している。必要に応じ、家族などへの状況報告を行っている。また緊急時には協力医療機関と24時間相談が可能な体制になっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 週2回、心療内科医の定期往診あり。利用者の心身状態の変化に応じて、(家族と相談・了承の上で) 随時、相談・診断・治療を受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護師により、利用者の日常の健康管理・医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 利用者に対して協働及び連携は図れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ミーティングにおいて、施設長より方針については聞いている。 (外部評価) 終末期に対する基本方針を定めており、ミーティング時に取組みについて繰り返し話し合いを行ない統一を図っている。現在までに事例がないことから、利用者、家族や医師を交えての話し合いは行なわれていない。	※	利用者、家族、医師ならびにホーム側の考えや意向がズレたまま終末期を迎えることのないように、できるだけ早期から話し合いの機会を持ち、関係者全体の方針の統一を図る取組みを期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) ミーティングの際、施設長より具体的な取組みについて何度も話し合いをしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今回、ユニット間異動の利用者に関しては、情報交換を行い、馴染みの職員による継続的ケアを行い、住み替えによるダメージの軽減に努めた。		ホーム外への住み替え時も利用者のダメージ防止の為に情報提供には協力していきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重した言葉かけを常に心がけている。居室への出入り・トイレ時など常にノック・声かけをしてから行っている。 (外部評価) 職員は穏やかな口調で言葉かけを行なっている。運営者が一年の計として立て事業所内に掲示している「今年の具体的な方針」はプライドを傷つける言葉や態度に触れており、利用者のプライドを損ねない職員の対応の意識づけになっている。個人情報に関する書類はスタッフルームの鍵のかかる書庫に保管することになっている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人の意志を尊重し、本人の意志力に応じて選択・納得できるように説明・言葉かけに工夫・配慮し、答えを待つ時間を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに基づく、個々のペースで生活できるように支援している。その時々で過ごし方を提案して、選んで頂いたり、本人からの希望を声に出して頂けるような雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 生活のリズムを守るための一日の過ごし方の基本は決めているが、職員は生活のリズムに配慮しながら、利用者一人ひとりのペースを見極めながら少し待つことを心がけ、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的にくまめに訪問美容を利用して、思い思いのスタイルを楽しまれている。その人らしい身だしなみ・おしゃれができるように本人に選択をまかせてさりげなくフォローしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好み・力に応じて、献立作り・準備・食事・片付けを一緒に行っている。 (外部評価) 食材の買出し、調理、朝食の配膳など関わり方は各々であるが、食事が楽しみなものになるよう、食事に関する一連の作業の中で、利用者の好みや力に応じて声をかけ一緒にするようにしている。職員は食事介助しながら利用者と共に食事を楽しんでいる。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 喫煙に関しては、健康上・管理上の問題もあり、禁煙。おやつはリクエストを聞いたりして手作りしている。行事時には飲酒も楽しまれている方もいる。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態に応じて、布パンツ・紙パンツ・パットを組み合わせて使用し、スムーズな排泄ができるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 職員配置の問題もあり、曜日・時間帯は決まっているが、湯温・湯量・習慣等はできるだけ利用者の希望に添えるよう配慮している。 (外部評価) 入浴回数は決まっているが、湯量や湯温は利用者の好みに沿えるよう配慮している。身体状態などにより湯船に入ることが負担になる場合はシャワー浴や清拭で対応しており、また足浴器具なども適宜利用している。シャワー浴だけでも毎日入りたい利用者にはその習慣に合わせる対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 寝つきの悪い方には、側に付き添って安眠できるように配慮している。一人ひとりの生活ペースや体調等により、思い思いに休息できるように支援している。		昼夜逆転傾向のある利用者に対しての支援を考えていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好み・力に応じて、役割や楽しみの中で力を発揮できる場面を演出・支援している。 (外部評価) 好みや力に応じ、役割や楽しみの中で力を発揮する場面づくりを支援している。料理が得意な利用者には意向を確認して料理経験の少ない職員とペアを組み調理をしてもらう、リーダーシップがとれる方には幼稚園児との交流会で挨拶をしてもらう、洗濯物をたたむ、カラオケに行く、居間の花をいける、習字など楽しむ機会も多く設けている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、現在事業所で管理している。		お金を持つことの大切さ・遣う楽しさもあるので、お買物ツアーを企画したり、一人ひとりの力で希望に応じて支援していく方向で検討する。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日常的に一人ひとりの希望に応じて、散歩や買物に出る等戸外に出かけられるように支援している。(行くか行かないか、行き先はある程度限定されている。) (外部評価) 利用者一人ひとりの希望に応じ、買い物、外食、カラオケなど、また職員が出かける時に誘うなど戸外に出かける機会をつくる支援を積極的に行なっている。日課としている豊かな自然の中での散歩は外出用の車いすを多数用意し全員で出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別的に支援して、東京・北海道・沖縄等へ行きました。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者よりの希望に応じて電話をかける等の支援は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 家族や馴染みの人が、気軽に訪問して頂けるように雰囲気作り・接遇に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		“～具体的な行為”について改めて学び、正しく理解して実践していきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室には施錠していない。 (外部評価) 玄関の鍵は夜間の防犯目的以外には施錠していない。ホームの建物は二つあり、民家を改修し利用しているユニットは自然換気のため玄関を開放していることも多く、門扉には来訪者のためのブザーをつけ防犯上施錠しているが、利用者は庭に自由に出ることができ門扉の施錠は利用者の戸惑いにはなっていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握しながら、職員間で声かけ合って目くばり・気くばり・心くばりに努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品は職員により管理されているが、一人ひとりの力・希望に応じて貸し出す(使用時は見守り、返却確認)ことにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハット報告書を作成し、事故原因となるリスク解消について、職員間で話し合い事故防止に努めている。		今後、利用者一人ひとりの状態に応じて、どんな事故が起こりうるか、職員間で話し合い事故防止に努めたい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 事業所内の看護師により、応急手当等の訓練・研修を行いつつ、マニュアル化している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署が近く、積極的及び具体的に協力して頂いております。 (外部評価) 防災訓練を年2回行っており、防災マニュアルも作成されている。近くにある消防署とは、運営推進会議で災害に関する説明をうけるなど日々の中でも協力が得られている。地域住民との協力体制はできていないが、来年度を目途に大規模災害に備えて町内の防災対策計画があり、事業所も協力依頼されている。	※	町内の防災対策の計画にあたり、事業所で毎年行っている防災訓練の結果も踏まえて、事業所が協力できること、してもらいたいことを明確にし、地域の中での事業所として地域と連携し、利用者の安全確保に取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりの起こり得るリスクについて、看護師と管理者より家族と話しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日、定時にバイタルチェックを行い、一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努めている。又気付いた際には速やかに看護師・かかりつけ医に報告を行っている。		利用者一人ひとりのふだんの状態をよく知り、早期発見に努める。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は、医療ノートにより一人ひとりが使用している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援し、飲み切るまで見守り確認を行っている。又、症状の変化の確認に努め、看護師に報告している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 職員は、便秘予防と対応のために薬に頼るのではなく、繊維質の多い献立や冷乳を飲んだり、温浴法・腹部マッサージを施したり、身体を動かす等の工夫・提案・支援を行っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを理解し、毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		ある利用者は、“怖いから自分でやります”と支援困難な方もいらっしゃるので、今後その方の支援について職員で話し合っており取り組んでいきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本献立として、栄養バランス・水分量が一目通じて確保できるよう工夫している。必要時には水分量チェックを行い、水分量の把握に努めている。 (外部評価) 食事構成の基本である一汁三菜をとり入れた食事となっている。過去の記録により、一人ひとりの適量を盛り付け、全食摂取している。水分補給は毎食汁物をつける、体を動かした後の水分補給など意識的に摂取の機会を設けている。	※	保健センターの栄養士などにより、栄養アセスメント・塩分量のチェックを実施し、献立作りに活かしていきたい。 利用者の年齢層が幅広いため、栄養摂取量が利用者一人ひとりの日々の活動量に見合ったものになっているか等について協力医療機関の栄養士等に専門的な観点からのアドバイスを得る取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し、それに従って予防・防止に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 献立を変えたりすることで、新鮮な食材を早めに使い切れるように工夫している。毎日使用した台所用品は、用途・材質に適した方法で消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関回りには、四季折々に花が見れるよう工夫・手入れされており、段差にはスロープが設けられている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 散歩で摘んだ草花を飾ったり、季節感のある品を飾ったりして生活感や季節感のある暮らしを演出する工夫をしている。 (外部評価) 季節の花を飾り、利用者と職員が一緒に作った季節感のある貼り絵を居間の装飾品の一つとして飾っている。エアコンと扇風機を併用して適温の風をつくり、空気がよどまないよう、また直接エアコンの冷気が利用者に当たらないようにし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下には、椅子やソファを配置して、思い思いの場所でくつろげるように工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具・衣類・お仏壇などを自由に持ち込んで頂いて本人が居心地よい空間作りができています。 (外部評価) ベット、タンス類、仏壇、テレビ、電話機や手芸道具、写真、手作りの装飾品など思い思いに持ち込みその人らしく過ごせる部屋になっている。		一部、本人の状態により実現できていない居室もある。今後どうするかご家族とも相談して考えていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 常に換気には気を配り、設定温度を設けて、それに応じてクーラー等の使用により快適な環境を作っている。又、利用者一人ひとりの好み・状態に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・廊下など要所には手すりを設置して、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室には目線の高さによくわかる表札が掛かっている。又、居室のレイアウトは混乱を防ぐため、変更しないようにしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外回りは、プランターや植木があり、季節により花や緑が楽しめるようになっている。しかし、現在は、利用者は見て楽しむためのものに限定されている。		ベランダ園芸など自分で種をまき、育てる楽しみにも取り組んでいきたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3利用者の1/3くらいの 4ほとんど掴んでいない	日々の関わりの中で、利用者の思いの聴き取りに努めていますが、十分にできていない方もいます。その時々のお思いを受け入れて、大切にしていきたいと思っております。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある ②数日に1回程度ある 3たまにある 4ほとんどない	散歩に出かけた時など、世間話をしながらゆったりと過ごさせている。ところが、ホームでは職員は立ち働いている姿が忙しく感じられているのではないのでしょうか。立ち止まり、手を休めて、腰を落ち着けて寄り添う時間を増やしていく。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	利用者は、思い思いのペースで暮らしていると思う。ホームの一日の流れに随分と馴染んでおられるように感じられる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	いろいろな場面で、笑顔がみられます。もっと多くの笑顔がみられ、楽しんで持てる力を発揮できるような場面作りを支援していきたい。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	職員の勤務体制もあり、行きたい時に行きたい所へ出掛ける（一人ひとりが）事は、できていない。不穩時の対応として、なんとか都合して行うことはある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	職員は、利用者の日頃の様子・状態を把握して、常に見守りを行っている。異変時には、速やかに管理者・看護師に報告、かかりつけ医に連絡している。夜間では、かかりつけ医との連絡体制ができています。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2利用者の2/3くらいが 3利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない	利用者の要望や状況に応じ、職員間で調整したり、申し合わせ、共有することにより、可能な限り柔軟に支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと 4ほとんどできていない	面会時などお話を伺うようにしているが、家族により利用者との関係に温度差があり、物理的理由等により頻度にも差があるため、充分とは言いがたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2数日に1回程度 ③たまに 4ほとんどない	近所の人や近くの幼稚園児が来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	町内会長様からは、庭園やイルミネーションを見に来るよう誘っていただき、高齢見守り員様からは、入居者の紹介を受けております。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の確保・定着が難しい。モチベーションに影響していると思います。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何をもって満足とするかは、一人ひとり違っていると思うが、プラスアルファの部分が今後の課題ではないかと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	謙虚にサービスの向上を図っていかねばと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

“行列ができるグループホーム”を目指しております!!入居者にとって最高の人気であり、職員にとっても最高の誇りと共に、入居者と職員の最高の優遇化の源です!!

《入居率は、最高のバロメーターです!!》

※お蔭様で弊所“グループホームみゆき”は、96%↑を維持しております。今年6月3日からは100%です!!